流通の事例

■広告主：ヤナセ
■業種：自動車販売
■媒体：産経新聞東京
■掲載面：経済面
■掲載日：８月＝複数回掲載
■広告会社：オプト

産経新聞　平成19年（2007年）

原油高騰止まらず

80ドル台迫る　投機資金が押し上げ

NY原油相場の推移
一時78.77ドル
1バレル当たり
NYMEX、WTI先物　1日終値76.53ドル
2006年　07

米国の旺盛なガソリン需要を背景に、原油価格の高騰が続いている。ニューヨーク・マーカンタイル取引所（NYMEX）の原油先物相場は、指標となる米国産標準油種（WTI）9月渡しが、一時1バーレル78・77ドルまで上昇し、昨年7月につけた取引中の最高値を更新した。夏のレジャーシーズンを迎え、今後の需要増を見込んだ投機資金などが相場を押し上げており、国内の景気や物価への影響も懸念される状況だ。

ニューヨーク原油の高騰は、イラン情勢やナイジェリアの治安問題などが相場を押し上げており、国内の景気や物価への影響も懸念される状況だ。

ニューヨーク原油の高騰は、イラン情勢やナイジェリアの治安問題などが原油生産に影響を与えかねない産油国での不安要因があるなかで、中国などの需要拡大が続いていることが背景にある。ドライブシーズンが本格化する8月を迎えて、需給逼迫による一段の値上がりが、企業業績にとってはマイナス要因。景気に影響を与えれば、石油需要自体が減少する可能性もある。

石油連盟幹部は「原油高騰は生産コスト増やガソリンなど投機的な資金流入も続いており、80ドル台に迫る勢いとなっている。

最大の石油消費国である米国で、今後も景気拡大が続くとの見方も高騰に拍車をかける。ミシガン大学が7月27日に発表した「消費者信頼感指数確報値」によると、ほぼ半数の消費者が来年半ばまでは好景気が続くとみており、米国内での石油需要も堅調に推移するとの見方が強まった。

米国では、テキサス州の製油所の不調など石油精製施設の稼働率が6月水準にまで積み上がっていたが、ここにきて精製施設の稼働再開が進み、「現在は製油施設の稼働率も9割以上の水準に戻った」（石油連盟）という。このため、7月6日時点で3億5258万バレルだった原油在庫量（備蓄分除く）は、27日時点で3億4453万バレルまで低下しており、在庫水準の低下も原油高騰を招いている。

このため、原油の在庫も1998年5月以来の高水準にまで積み上がっていたが、ここにきて精製施設の稼働再開が進み、「現在は製油施設の稼働率も9割以上の水準に戻った」（石油連盟）という。このため、7月6日時点で3億5258万バレルだった原油在庫量（備蓄分除く）は、27日時点で3億4453万バレルまで低下しており、在庫水準の低下も原油高騰を招いている。

ただ、このまま相場上昇が続くことには、懐疑的な見方もある。原油高騰は生産コスト増やガソリンなど投機的な資金流入も続いており、80ドル台に迫る勢いとなっている。

最大の石油消費国である米国で、今後も景気拡大が続くとの見方も高騰に拍車をかける。ミシガン大学が7月27日に発表した「消費者信頼感指数確報値」によると、ほぼ半数の消費者が来年半ばまでは好景気が続くとみており、米国内での石油需要も堅調に推移するとの見方が強まった。

米国では、テキサス州の製油所の不調など石油精製施設の稼働率が6月